情報提供用資料
2026年11月25日

足元の相場変動を受けた当面の見通し

次世代AI株式戦略ファンド

追加型投信/内外/株式



- 平素は『次世代AI株式戦略ファンド』(以下、当ファンド)に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
- 本レポートでは、足元のマーケット急変を受けての当面の見通しについてご説明いたします。

足元の投資環境

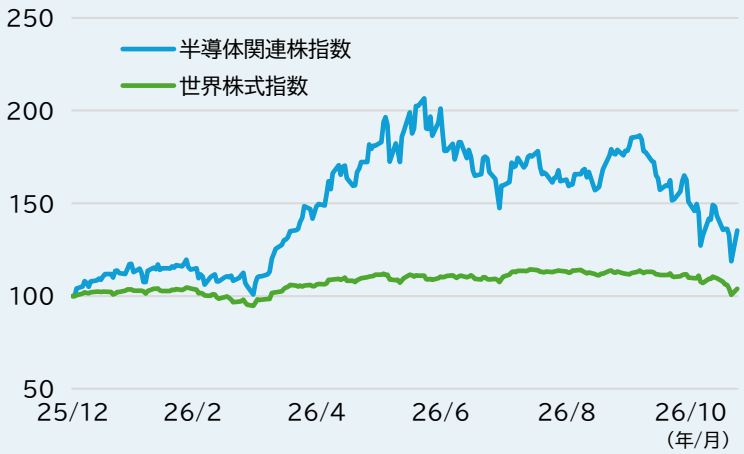
足元のテクノロジー株は、AI関連企業による巨額な設備投資や、ハイパースケーラーの資金調達戦略に対する懸念などを背景に、株価の変動が大きくなっています。

こうした中、11月19日にAI開発大手のアンソロピックがIPO(新規株式公開)により上場しましたが、それに伴う換金売りによる需給悪化懸念や、半導体大手エヌビディアのジェンスン・ファン氏の去就を巡る混乱も重なり、AI・半導体関連株は先週末に急落しました。しかし、23日には、エヌビディアからジェンスン・フアン氏のCEO復帰が発表されると同社株は急反発し市場のセンチメントも好転、AI関連株を中心に大幅に反発しました。

当面、株式市場は神経質な動きとなりやすい状況が続くことが想定されるものの、AIの導入・普及はまだ初期段階にあること、AI関連需要は引き続き堅調であることなどから、次世代AI関連分野の長期的な成長見通しについては、引き続き前向きな見方を維持しています。

図表1 世界株式指数と半導体株指数の推移

(期間:2025年12月31日 ~2026年11月23日、日次)



※2025年12月31日を100として指数化
※世界株式指数:MSCIオール・カントリー・ワールド・インデックス(米ドルベース)
※半導体関連株指数:フィラデルフィア半導体株指数(米ドルベース)
※指数は、当ファンドのベンチマークではありません。市場をご理解いただくための参考としてお見せしています。

(出所)Bloombergのデータを基にSBI岡三アセットマネジメント作成

当面のマーケット見通し

1. アンソロピックのIPOとAI市場への影響

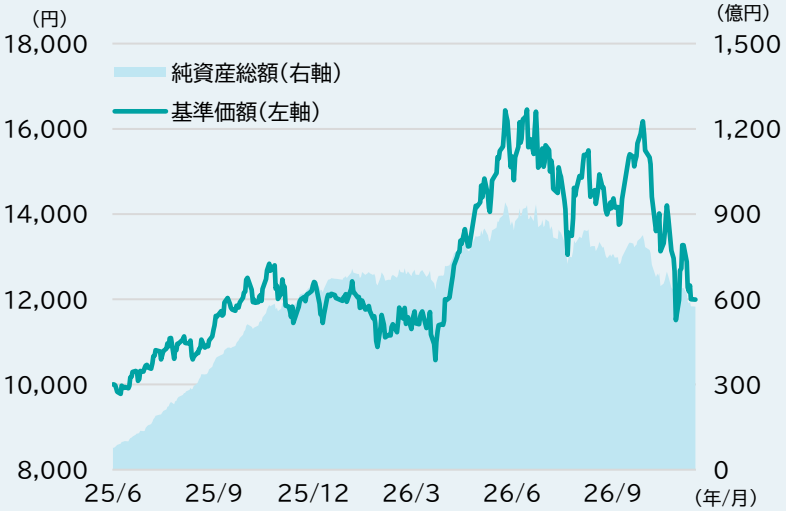
アンソロピックは、史上最大規模となるIPOを実施しました。しかし、AI関連株に対する投資家の期待を再び高めるには至りませんでした。同社の株価は上場初日の11月19日に公開価格を上回る水準で取引を終えましたが、翌営業日には買いが続かず反落しました。こうした反応を受けて、AI関連株の高いバリュエーションに対する懸念が市場では改めて意識されました。

しかし、投資チームでは、今回のIPOを次世代AI業界全体にとって前向きな動きとして評価しています。世界の株式市場が不安定になる中、同社が巨額の資金調達に成功したことは、同社の財務基盤を強化し、今後必要となるAIの計算処理能力(コンピューティング資源)を確保するための資金力を高めたと考えています。

また、こうした資金調達は、ハイパースケーラーが抱える受注残高が実際の売上高につながることへの確信を高めるとともに、半導体分野の設備投資サイクルの下支えになるものと考えています。

図表2 当ファンドの基準価額と純資産総額の推移

(期間:2025年6月9日(設定日)~2026年11月24日、日次)



※基準価額:1万口当たり、信託報酬控除後
※グラフは過去の実績であり、将来の成果を示唆または保証するものではありません。



2. 株式市場全体に広がる懸念

アンソロピックが上場した時点で、投資家はすでに株式市場全般に対して慎重な姿勢を強めていました。こうした中、インフレ懸念の再燃や連邦準備制度理事会(FRB)のタカ派的姿勢が、テクノロジー株にとって重しとなりました。政策当局者が、より積極的な利上げの可能性を示唆したことも、株式市場の不透明感を高めています。

また、エヌビディアについては、ジェンスン・フアン氏の退任を巡る混乱や、同社によるネオクラウド企業への資金提供を巡る懸念、半導体の輸出規制が強化される可能性への警戒などが、AI・半導体関連株の株価の下押し要因となりました。しかし、11月23日に同氏のエヌビディアCEOへの復帰が報じられたことを受け、エヌビディア株は急反発しました。今回の復帰によって経営体制を巡る不透明感は、一旦後退したものの、AI関連企業の資金調達や半導体輸出規制などを巡る懸念は依然として残ると考えられます。

米国における一連の動きは、世界の株式市場全体に対しても売り圧力となり、特にアジアの半導体関連株は影響を大きく受けました。投資家が、足元において投資資金が集中しているAI関連株への投資比率を引き下げ、よりディフェンシブなセクターへ資金をシフトしたことが背景にあると見られます。

3. 株価の変動が続く中でも、ファンダメンタルズは引き続き良好

投資チームでは、こうした金融政策を巡る不透明感やAI関連企業を巡る懸念が、短期的には株式市場の変動を大きくする要因になると想定しています。しかし、企業業績や需給環境などのファンダメンタルズは引き続き良好であると考えており、テクノロジー分野の長期的な成長見通しについては、引き続き前向きな見方を維持しています。

AIの導入・普及は、まだ初期段階にあります。今後もAIモデルの性能向上が続くことで、新たな活用事例が生まれ、企業や消費者によるAIの導入が加速すると予想しています。また、足元の株価調整によって、半導体やハードウェア関連企業のバリュエーションは以前より魅力的な水準になったと考えています。一部の銘柄では、過度に悲観的なシナリオが株価に織り込まれていると見ています。

重要な点として、最近発表されたテクノロジー企業の決算は総じて良好であり、AIインフラに対する需要が供給能力を上回る状況が続いていることが窺われます。こうしたことから、短期的には市場の不安定な状況が続く可能性があるものの、AI市場の中長期的な成長を支えるファンダメンタルズは引き続き良好であると考えています。

今後の運用方針

当ファンドでは、AI市場の成長機会を幅広く捉えるため、半導体やデータセンターなどのAIインフラ企業に加え、AIを活用して新たな市場や事業機会を創出するAIイノベーター企業にも着目しています。

市場の変動が大きい局面においても、企業の中長期的な成長性や収益化の可能性を慎重に見極めながら、魅力的な投資機会を選別していくことが重要と考えています。

販売会社一覧　2026年11月25日現在

受益権の募集の取扱い、投資信託説明書(交付目論見書)、投資信託説明書(請求目論見書)及び運用報告書の交付の取扱い、解約請求の受付、買取請求の受付・実行、収益分配金、償還金及び解約金の支払事務等を行います。
なお、販売会社には取次販売会社が含まれる場合があります。

商号	登録番号	加入協会			
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会
(金融商品取引業者)					
岡三証券株式会社	関東財務局長(金商)第53号	○	○	○	○
岡三にいがた証券株式会社	関東財務局長(金商)第169号	○			
岡三ビジネス&テクノロジー証券株式会社	関東財務局長(金商)第170号	○	○		
おきぎん証券株式会社	沖縄総合事務局長(金商)第1号	○			
野畑証券株式会社	東海財務局長(金商)第18号	○			○

委託会社
お問合わせ先

電話番号
03-3516-1300(営業日の9:00~17:00)

ホームページ
https://www.sbiokasan-am.co.jp

次世代AI株式戦略ファンドに関する留意事項

■ 投資リスク

基準価額の変動要因

投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。
投資信託は預貯金と異なります。投資信託財産に生じた利益及び損失は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
ファンドは、国内外の株式等値動きのある有価証券等に投資しますので、組入れた有価証券等の価格の下落等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資しますので、為替相場の変動により損失を被ることがあります。

ファンドの主な基準価額の変動要因としては、「株価変動リスク」、「為替変動リスク」、「特定の業種・テーマへの集中投資に係るリスク」、「信用リスク」、「流動性リスク」があります。その他の変動要因は、「カントリーリスク」があります。

※「基準価額の変動要因」は、上記のリスクに限定されるものではありません。

留意事項

- ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリングオフ)の適用はありません。
- 投資信託は預金商品や保険商品ではなく、預金保険、保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関が取り扱う投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- ファンドは、大量の解約が発生し短期間で解約資金を手当てする必要が生じた場合や主たる取引市場において市場環境が急変した場合等に、一時的に組入資産の流動性が低下し、市場実勢から期待できる価格で取引できないリスク、取引量が限られてしまうリスクがあります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金申込の受付が中止となる可能性、換金代金の支払が遅延する可能性があります。
- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、ファンドの純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合があるため、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。また、投資者の購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりが小さかった場合も同様です。
- 投資対象とする投資信託証券にかかる購入・換金申込の受付の中止および取消、取引所における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金申込の受付を中止することや、すでに受付けた購入・換金申込の受付を取消すことがあります。
- 詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「投資リスク」をご参照ください。

■ お客様にご負担いただく費用

- 購入時手数料:購入金額(購入価額×購入口数)×上限3.3%(税抜3.0%)
- 換金手数料:ありません。
- 信託財産留保額:ありません。
- 運用管理費用(信託報酬):純資産総額×年率1.2925%(税抜1.175%)
- 運用管理費用(信託報酬)の実質的な負担:純資産総額×年率1.826%(税抜1.66%)程度
  ※実質的な負担とは、ファンドが投資対象とする投資信託証券の信託報酬を含めた報酬です。なお、実質的な運用管理費用(信託報酬)は目安であり、投資信託証券の実際の組入比率により変動します。
- その他費用・手数料:監査費用〔純資産総額×年率0.0132%(税抜0.012%)〕
  有価証券等の売買に係る売買委託手数料、投資信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等を投資信託財産でご負担いただきます。また、投資対象とする投資信託証券に係る前記の費用等、海外における資産の保管等に要する費用等を間接的にご負担いただきます。(監査費用を除くその他費用・手数料は、運用状況等により変動するため、事前に料率・上限額等を示すことはできません。)

○お客様にご負担いただく費用につきましては、運用状況等により変動する費用があることから、事前に合計金額もしくはその上限額またはこれらの計算方法を示すことはできません。
○詳しくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」の「手続・手数料等」をご参照ください。

SBI岡三アセットマネジメント

商　号　等: SBI岡三アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者　関東財務局長(金商)第370号
加入協会:一般社団法人資産運用業協会

<本資料で使用しているインデックス>

● MSCI指数はMSCI Inc.が算出している指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。
またMSCI Inc.は、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、当ファンドに関する情報提供を目的としてSBI岡三アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、ファンドの投資勧誘を目的として作成したものではありません。■本資料に掲載されている運用実績は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。また、税金、手数料等を考慮しておりません。■本資料に掲載されている市況見通し等は、本資料作成日時点での当社の見解であり、将来予告なしに変更される場合があります。また、将来の運用成果を保証するものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その情報の正確性・完全性を保証するものではありません。■購入の申込みに当たっては、投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いします。